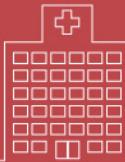


# 八鹿病院 ニュース

2010年  
1月

## 公立八鹿病院基本理念

『私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。』

けましておめでとうございます。皆様にはご家族お揃いで良い年をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

また、平素から病院組合運営には温かいご理解ご支援を頂いておりまして深く感謝申し上げます。とりわけ昨年は市民の皆様により、病院を支援する組織の結成や病院理解のシンposium等の開催をして頂きました。

医師不足を始めとした厳しい環境下で如何に医療確保をする方に苦悩している我々にとりましては何よりも大きなお力を頂いたと感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、昨年は史上初めてといえぬ本格的な政権交代が起こりました。その結果、今までの常識がどんどん覆る激しい変化が始まっています。政権公約には財政主導の医療政策は続けないとありましたが、現在の地域医療崩壊の原因は国の施策に端を発した構造的なものであります。新しい政府には大胆に改革を進め、地域の皆様方に安心して医療を受けて頂けるような施策を早急に講じてもらいたいものであります。

新しい年が皆様方にとって良い年でありますように祈念し、新年のご挨拶と致します。

**明**けましておめでとうございます。皆様方にはご家族お揃いで良い年をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

八鹿病院組合 管理者  
**池口 壽彦**

**明**けましておめでとうございます。皆様に新春のご挨拶を申し上げます。現在全国的に医師不足が社会問題化していますが、当院でも以前に比べて、10数人の医師が減っています。そのため診療制限をする科もあり、地域の皆様にご迷惑をおかけしており、申し訳なく思っています。

八鹿病院 院長  
**宮野 陽介**

# 院内助産制度

## 導入後の成果について

地域のお産を守るために導入された「院内助産制度」。導入後どのようにお産事情が変わったのかをご報告します。



公立八鹿病院 副院長  
産婦人科

**津崎 恒明**



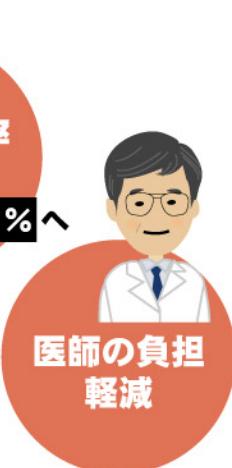
(但馬:豊岡・日高・八鹿病院)

### 院内助産制度とは

院内助産制度とは、担当の助産師が中心となって、医師と連携しながら妊娠中から出産、育児期まで継続的にお母さんと赤ちゃんをサポートするシステムです。

### 院内助産制度導入の背景

産科医師・産科医療施設の減少による「お産難民」の発生などの不安がつづくなか、但馬も例外ではなく、平成21年6月より当院の産科医師は一人になりました。それでも何とか地域のお産を守れないものかと考えたときに誕生したのが、この制度です。この制度の目標は、助産師の経験を活かすと同時に、産科医師の負担を軽減することでした。



平成20年9月から本制度を導入し、平成21年11月30日までに130名の妊婦（同期間中の全分娩例の40%）が同制度を利用して出産されました。このような体制で得られた成果としては、高い顧客満足度のなかで、仮死産の増加なしに帝王切開率が半減したことや、医師の時間外労働（特に夜間）の頻度減少や助産師のやりがい向上が得られたことなどがあげられます。

### ■導入してよかつたこと

### ■これからとの問題点

このようにいささか不自由ではあります。が、病院内に「おぎやー」と赤ちゃんの元気な泣き声が聞こえるとほっとし、疲れが取れるのも事実です。市民の皆様には里帰り分娩やハイリスク妊娠例の受け入れ制限等ご迷惑をおかけしてしまいますが、今後も皆様のご理解とご協力を頂きながら本制度の継続と充実に努める所存ですので、ご支援のほどよろしくお願いします。

これらのようにまさに「三万良し」の制度ですが、問題が無いわけではありません。つまり本制度が円満に継続されるためには、本制度に理解のある産科医師が存在することが必須です。最近よく持ち出される例えに、「産科医師は絶滅危惧種で、但馬の産科医師数はコウノトリの数より少ない」があります。県が飼育・繁殖させ、放鳥されたコウノトリは、遠く東海地方まで足を伸ばしているのですが、産科医師（筆者）の行動範囲は、一人体制後、約半径15キロ以内です。

## 常勤医が着任しました

平成21年11月より、脳神経外科外来体制が拡充しました。  
現在の診療体制について着任された福森医師にお話を伺いました。

平成21年11月より脳神経外科の常勤医として着任しました。よろしくお願い申し上げます。昭和50年の卒業で、宮野陽介院長の2年後輩です。それまでは神戸市兵庫区にあります栄昌会吉田病院に院長として勤務していました。脳神経外科専門医11名、脳卒中は年間約700例、手術総数は平成20年度410件の脳神経外科専門病院です。

分対応できず、皆様の健康をお守りする上で大変困っている状況をお話しされました。そして再三早くこつちへ来るよう依頼を受けました。今年3月、私自身が前病院の院長職を退いたのを契機に、こちからに参る決心をしました。

### 現在の脳神経外科での 診療体制は

### 八鹿病院に着任された きっかけは?

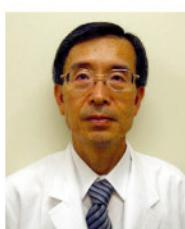
宮野現院長や岩井前院長には、神戸までわざわざお出かけいただきました。また、お手紙を通じて、八鹿病院はこの地域の基幹病院の一つであり、脳神経外科医が不在では、脳卒中など高齢化に伴う病気に十

担当する主な疾患は、脳卒中(脳梗塞や脳出血)や、特発性正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫(これらの疾患は手術すれば治療可能な痴呆症です)で、手術適応があれば手術を行います。特に、3時間以内の脳梗塞に高い効果があると認められています血栓溶解剤(t-PA)治療を

外来は、非常勤医を含め週4回、**脳ドック**は週3回行っています。基本的には予約制ですが、急を要する場合は対応させていただきます。頭痛・めまい・ふらつき・力が入らない・しびれ・けいれんなどの症状があれば受診してください。

### どのような時に 受診すればよい?

時間限定(平日の8時から18時)ではありませんが始めます。



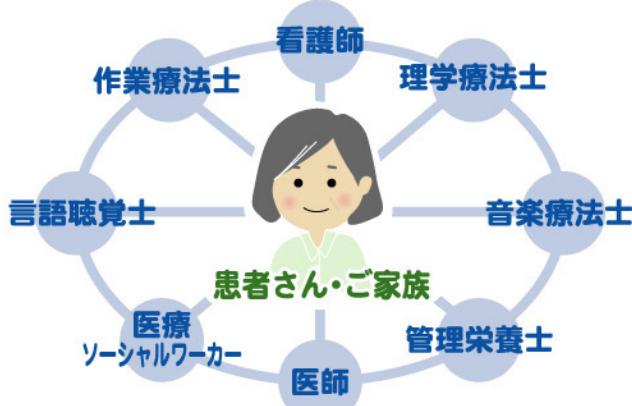
公立八鹿病院 副院長  
脳神経外科  
**福森 豊和**

「おかしいな…」と思ったら受診しましょう。

頭痛 めまい ふらつき  
力が入らない しびれ けいれん

【お問い合わせ】  
**公立八鹿病院 脳神経外科**  
TEL:079-662-5555(代表)

# 公立八鹿病院 リハビリテーション部門の紹介



## 基本理念

地域中核病院として、発症急性期から回復期・維持期まで、一貫したリハビリテーションサービスを提供し、患者さんの自立支援のための手助けを行います。

## 基本方針

1. 入院直後から急性期医療に対応したリハビリテーションを行います。
2. 平日だけでなく、セラピストによる365日のリハビリテーション実施に努めます。
3. 早期の家庭復帰・社会復帰を目指します。
4. 院内及び他院との連携を密にし、安全で質の高いチーム医療を行います。

リハビリテーションは、家族も含め、住み慣れた地域の中で自立した生きがいのある生活が送れることが目標としています。そのためには、多職種がチームを組んで協力しながらリハビリを進めることが重要となつてきます。

- ### 当院リハビリテーション部門の特徴
- ① 多数の専門職を確保
  - 効果的で効率的な治療が行なえるよう、県下の自治体病院の中でも随一のスタッフ数（総数51名）を有しています。

- ### ② 発症早期から休日も実施
- 入院患者さんに対しては、できるだけ早期からリハビリを実施するようにし、特に発症後1か月の間は、必要に応じて休日も対応しています。

### ③ 回復期リハビリ病棟の施設認可

平成13年に兵庫県で初めて認可を受けました。脳卒中や大腿骨の骨折後などの患者さんを対象に日常生活動作の自立、社会復帰に向けてリハビリを行います。療法士は平日11名、休日5名体制で365日、一avezに対応したリハビリを提供しています。

看護師、介護士との歩行・入浴練習なども積極的に行っています。最近では、豊岡病院をはじめ他の医療機関からもリハビリを目的として転院される方が増えています。

### ④ 福祉センター部門の併設

退院後も継続してリハビリが必要な方には、主に介護保険サービスによる老人保健施設でのデイケアや、訪問看護ステーションからの訪問リハビリに引き継いでいます。老人保健施設ではパワーリハ機器を導入し、利用者の活動性の向上に効果を上げています。

訪問リハビリは、南但全域と一部北但までの広域にわたり、年間約7300件という訪問件数実績があります。

### ⑤ 音楽療法士の関わり

音楽療法士が働いている自治体病院は全国的にも少ない中、2名の音楽療法士を採用し、病院内の回復期リハ病棟や緩和ケア病棟、老人保健施設、院内コンサートや楽歌の会（失語症の患者会）への参加、医師の訪問診察に同行し音楽療法を行うなど幅広く活動しています。

### ⑥ 近隣機関への技術支援

エスボワールこじか、北但広域療育センター「風」、豊岡聴覚特別支援学校、出石特別支援学校、妙見荘などへ定期的に職員を派遣し技術支援を行なっています。

以上、当院のリハビリ部門について紹介しましたが、今後も院内はもとより地域の関係機関との連携を密にして、継続的で良質なリハサービスを提供することにより、安心して暮らせる地域社会作りに協力していくきます。



## 《薬剤副作用連絡カード》

八鹿 太郎 様

(生年月日) 明治・大正・昭和・平成 年 月 日

近年多くの医薬品が開発されており、その医薬品による薬剤アレルギーや副作用も多様化しています。そんな現状から患者さんを守るため、「副作用連絡カード」が誕生しました。

# 医薬品の副作用再発防止のとりくみ —薬剤副作用連絡カードの運用—

## 副作用と薬物アレルギー

### 「副作用連絡カード」で 副作用の再発防止

薬には、病気を改善する効果(主作用)と本来の目的以外の効果(副作用)があります。例えば、痛み止めを飲むと、痛みはとれますが胃が荒れるという経験はありませんか。この「痛み」がとれるのが主作用、「胃が荒れる」のが副作用といふことになります。

また、薬を服用する「こと」によって、湿疹や肌が赤くなるなどの薬剤アレルギーがでる方もあります。これらの副作用は、牛乳・卵などの食物アレルギーと同じく、誰にでも起るものではありません。また、症状や強さにも個人差があり、服用前に予測することができ難いのが現状です。



### 副作用・症状の確認された 薬剤名等が記入されます

患者氏名、副作用の発現日、起因薬名、アレルギー物質(卵など)、副作用症状、アレルギー症状、備考、記入者名が記載されます。

発現日	副作用起因薬	副作用症状	備考	記入者
H21年11月 1日	ロキソニン錠	発疹		八鹿 花子
年 月 日				
年 月 日				
発現日	アレルギー物質	アレルギー症状	備考	記入者
年 月 日				
年 月 日				

(病院・科・薬局名)

安全な服薬のため  
但馬が一体となる

当院の取り組みをきっかけに、但馬地域で統一されたカード形式の「薬剤副作用連絡カード」を作製・活用することが、但馬病院薬剤師会・但馬薬剤師会で検討されました。そして、本年7月に新しい「薬剤副作用連絡カード」が出来上がり、運用が開始されました。新しいカードは但馬地域全ての医療機関、保険薬局で取り扱っています。

今後も患者さんにより良く、安全な医療の提供ができるよう医師、病院薬剤部、保険薬局の連携を密にし、薬剤副作用の情報収集に努め、起因薬剤の投薬・副作用の再発防止に努力していきたいと思います。



平成21年  
11/13(金)

## 戴茜-Dai Qian-さんコンサート



### 幻想的な中国古箏の音色に癒されました

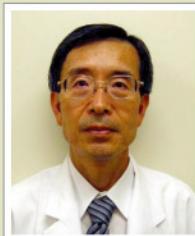
この日のコンサートは、日本の琴のルーツとなった「中国古箏」のコンサートでした。演奏してくださった戴茜さんは、チャイナドレスがとても似合っておられ、演奏中・トーク中ともに笑顔のたえない素敵なお方でした。

コンサートでは「涙そうそう」などの沖縄音楽メドレーや、2008年開催の北京オリンピックのオープニングテーマとなった曲で「ジャスミン」など、全5曲を演奏していただきました。中国古箏の繊細な音やダイナミックな音はとても心地よく、30分という短い時間ではありましたが、とても濃い「癒し」の時間となりました。



### 新しく着任された先生のご紹介

～よろしくお願ひします～



平成21年  
【脳神経外科】11月1日付  
ふくもり とよかず  
**福森 豊和 先生**

できる手術は限定されますが、各科の先生方と協力してお役に立てればと思います。宜しくお願ひいたします。

### お見舞いについて

病院には、免疫力の低下されている方が多く入院されています。お見舞いされる相手に対する思いやりが第1です。以下のことをお守りください。

- 1、多人数やお子様づれのお見舞いは控えましょう
- 2、お部屋では周りの方にも気を配りましょう
- 3、お見舞いで長居は控えましょう